

ビジョンに掲げた5年間の取組	令和3年度の取組	構成員	連携団体	取組実績等 【○は新規取組】	進捗状況	今後の取組方針	
諏訪湖環境研究センター(仮称)の設置の検討	「諏訪湖環境研究センター(仮称)整備事業	水大気環境課		・R3年度:建物の改修工事に向けた設計を実施。	B	・R4~5年度:改修工事を実施予定。 ・R6年4月の開設を目指す。	
調査研究の推進	①諏訪湖における底質実態、貧酸素発生状況の把握及び改善手法に関すること	水質検査	水産試験場諏訪支場 諏訪湖クラブ	全国水マッパー斉水試調査実行委員会(全国組織)	・湖心:5~9月のみ週1~2回、その他月1回 ・他4地点:5~9月のみ週1~2回(諏訪湖クラブ) ・年1回:6月6日、全国一斉水質調査に参加、諏訪湖流入河川、天竜川で30地点(COD)	B A	貧酸素発生状況を把握するため水質調査を継続する 継続
		貧酸素調査	環境保全研究所	信州大学理学部附属諏訪臨湖実験所	・溶存酸素:湖内全域測定21地点 ・溶存酸素:湖内連続測定5地点 R3年度(6月~12月)		・溶存酸素:湖内全域測定(21地点)はR1年度終了 ・溶存酸素:湖内連続測定(5地点)は継続
		底質調査	環境保全研究所	信州大学理学部附属諏訪臨湖実験所	・[底泥酸素消費速度(SOD)] 6地点(春、夏、秋期)	B	底泥溶出量の実態把握調査、底泥酸素消費速度(SOD)の詳細調査、簡易測定手法の検討
		プランクトン調査	松本保健福祉事務所検査課		・植物プランクトン1地点(湖心) (月1回)	B	引き続き実施
	水産試験場諏訪支場			・動物プランクトン1地点(湖心) 月1回	B	貧酸素発生状況との関連性を評価し、調査の継続を検討する。	
	②貧酸素水塊の挙動に関すること	貧酸素調査(再掲)	環境保全研究所	信州大学理学部附属諏訪臨湖実験所	・溶存酸素:湖内全域測定21地点 ・溶存酸素:湖内連続測定5地点 R3年度(6月~12月)	B	・溶存酸素:湖内全域測定(21地点)はR1年度終了 ・溶存酸素:湖内連続測定(5地点)は継続
	③ヒシ除去場所及び覆砂場所における水質浄化効果と生態系に及ぼす影響に関すること	覆砂場所モニタリング	環境保全研究所		・水質4地点(5月、8月、11月) ・底質4地点(5月、11月) ・底質酸素消費量(7月、10月)		
		水質モニタリング	諏訪建設事務所		・下諏訪町高浜沖他(7月~10月 月1回)	B	引き続きモニタリングを実施
		覆砂場所生物モニタリング(シジミ)	水産試験場諏訪支場		生息調査 6地点(5、8、11月)	B	生態系に及ぼす効果をみるため調査を継続する。
		底生生物・魚の定性調査	水産試験場諏訪支場		底生生物・魚種別の個体数 6地点(6、8、10月)	C	生態系に及ぼす効果をみるため調査を継続する。
④沈水植物の分布状況、水生植物の適正管理など植生に関すること	水生植物分布調査	水産試験場諏訪支場		・ヒシ及び水生植物の分布 全湖岸水域8月(1回)	B	水生植物の分布状況を把握するため調査を継続する。	
	湖辺植生調査(沈水植物、抽水植物等)	諏訪建設事務所		・Bゾーン(H29水辺整備箇所)年3回(春、夏、秋)Cゾーン(今後水辺整備予定箇所)	B	引き続きB・Cゾーンの調査を実施	
	湖辺植生調査(抽水植物等)	環境保全研究所		・抽水植物帯の動植物調査(年5回・6~10月) ・ドローンによる空撮			
⑤湖水の水質や生態系関係データの解析、汚濁負荷物質の収支など汚濁負荷のメカニズムに関すること	水質常時監視(環境基準点)	松本保健福祉事務所検査課		・環境基準点 湖内3地点(月1回)	B	引き続き実施	
	水質常時監視(流入4河川)	水大気環境課		・上川、宮川、砥川、横河川 6地点(月1回) [外部委託]			
	水浴場水質調査	松本保健福祉事務所検査課		・環境基準点3地点 年2回(5月、8月)			
⑥諏訪湖に流入する河川の水量、諏訪湖への地下水流入の状況など水の流れに関すること	流入河川水量等調査	環境保全研究所 諏訪地域振興局環境課		塚間川、横河川、砥川、承知川、上川、宮川、釜口水門等 (~3月)	B	水量調査・水質調査を継続し、河川から諏訪湖の流入負荷量を把握する	
	水文調査	諏訪建設事務所			A	完了	
⑦諏訪湖の水深などの状況の確認に関すること	湖底測量(H30に実施済)	諏訪建設事務所			A	完了	
⑧多様な魚類の生息環境を形成するための技術	覆砂場所生物モニタリング(シジミ)(再掲)	水産試験場諏訪支場		生息調査 R3:6地点(5、8、11月)	B	生態系に及ぼす効果をみるため調査を継続する。	

ビジョンに掲げた5年間の取組		令和3年度の取組	構成員	連携団体	取組実績等 【○は新規取組】	進捗状況	今後の取組方針
	に関すること	底生生物・魚の定性調査(再掲)	水産試験場諏訪支場		ワカサギ資源尾数推定 湖内全域 R3:月1回(6~11月)	B	魚介類の生息環境の形成の新知見を集積するため調査を継続する。
		魚群探知機による資源量調査	水産試験場諏訪支場		湖心1地点 R3:7回(4~6月)	B	魚介類の生息環境の形成の新知見を集積するため調査を継続する。
		稚魚ネットによるワカサギふ化仔魚調査	水産試験場諏訪支場		湖内全域 (毎月)	B	魚介類の生息環境の形成の新知見を集積するため調査を継続する。
		漁獲量等調査	水産試験場諏訪支場		ワカサギ資源尾数推定 湖内全域 R3:月1回(6~11月)	B	魚介類の生息環境の形成の新知見を集積するため調査を継続する。
	⑨流出水対策地区における汚濁負荷の低減に関すること	宮川汚濁負荷調査(H29~R1に実施済)	環境保全研究所			A	⑥の中で、宮川も含めた複数の流入河川の実態調査を予定
調査研究の推進	⑩諏訪湖の水質・生態系等水環境全体をよりわかりやすく評価できる指標や目標に関すること	透明度調査	松本保健福祉事務所検査課		・環境基準点 湖内3地点 (月1回)		
		水生植物分布調査(再掲)	水産試験場諏訪支場		ヒシ及び水生植物の分布 全湖岸水域 8月(1回)	B	水生植物の湖辺環境を検証するため調査を継続する。
		湖辺植生調査(沈水植物、抽水植物等)(再掲)	諏訪建設事務所		・Bゾーン(H29水辺整備箇所)年3回(春、夏、秋)Cゾーン(今後水辺整備予定箇所)	B	引き続きB・Cゾーンの調査を実施
		覆砂場所生物モニタリング(シジミ)(再掲)	水産試験場諏訪支場		生息調査 R3:6地点(5、8、11月)	B	魚介類の生息環境を検証するため調査を継続する。
		シジミ増殖技術開発	水産試験場諏訪支場		市販の飼料を利用した、適正な給餌量の検討	C	放流種苗を確保するため種苗生産技術開発を継続する。
		植生調査(抽水植物等)(再掲)	環境保全研究所		・抽水植物帯の動植物調査(年5回・6~10月)		
		底生生物・魚の定性調査(再掲)	水産試験場諏訪支場		底生生物・魚種別の個体数 R3:6地点(6、8、10月)	C	魚介類の生息環境を検証するため調査を継続する。
		魚群探知機による資源量調査(再掲)	水産試験場諏訪支場		ワカサギ資源尾数推定 湖内全域 R3:月1回(6~11月)	B	魚介類の生息環境を検証するため調査を継続する。
		稚魚ネットによるワカサギふ化仔魚調査(再掲)	水産試験場諏訪支場		湖心1地点 R3:7回(4~6月)	B	魚介類の生息環境を検証するため調査を継続する。
		漁獲量等調査(再掲)	水産試験場諏訪支場		湖内全域 (毎月)	B	魚介類の生息環境を検証するため調査を継続する。
		カモ類(魚食性鳥類を含む)生息個体数調査	諏訪地域振興局林務課		・年3回(6月、10月、1月)、諏訪湖及び主な流入河川、天竜川	A	次年度以降も、同様に年3回実施予定
		諏訪湖カワアイサ対策生態調査	諏訪地域振興局(林務課・諏訪農業農村支援センター水産試験場諏訪支場))	諏訪湖漁業協同組合 諏訪猟友会	・カワアイサの食性等を調査し、魚食に対する有効な対応方法を検討	C	今年度の調査結果を踏まえ、連携団体と調整しながら対策につなげる。
		指標水生動物(メガネサナエ)の保全手法検討	諏訪地域振興局環境課		流入河川の成虫調査3回(8~9月)、諏訪湖湖岸の羽化殻調査3回(7~8月) 保全手法検討会議を12月に開催	A	引き続きモニタリングを実施するとともに、保全に向けた啓発を行う。

進捗状況：現在までの進捗率に応じて、A：完了(100%)・B：順調(80%~)・C：概ね順調(60%~)・D：要改善(40%以下)・E：未実施(0%)を記載